

平成 21 年 3 月 3 日

各 位

会 社 名 ゼネラルパッカー株式会社
 代表者名 代表取締役社長 梅森 輝信
 (JASDAQ・コード6267)
 問い合わせ先 取締役管理部長 小関 幸太郎
 電話番号 0568(23)3111(代表)

平成 21 年 7 月期第 2 四半期累計期間業績予想との差異及び 通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 21 年 7 月期第 2 四半期累計期間(平成 20 年 8 月 1 日～平成 21 年 1 月 31 日)の業績予想について、平成 20 年 12 月 4 日付当社「平成 21 年 7 月期第 1 四半期決算短信(非連結)」にて発表いたしました業績予想と、本日発表の平成 21 年 7 月期第 2 四半期累計期間の実績に下記の通り差異が発生しましたのでお知らせいたします。また、最近の業績動向を踏まえ、平成 21 年 7 月期通期(平成 20 年 8 月 1 日～平成 21 年 7 月 31 日)の業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 21 年 7 月期第 2 四半期累計期間の業績予想と実績の差異について

(1) 第 2 四半期累計期間(平成 20 年 8 月 1 日～平成 21 年 1 月 31 日)

(単位：百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成 20 年 12 月 4 日発表)	1, 7 5 0	1 8	2 0	1
実 績 値 (B)	1, 9 0 1	1 1 1	1 1 6	6 6
増 減 額 (B-A)	1 5 1	9 3	9 6	6 5
増 減 率 (%)	8. 6	5 1 6. 7	4 8 0. 0	—
(ご参考) 前期実績(平成 20 年 1 月中間期)	1, 5 1 5	△ 3 3	△ 2 8	△ 2 6

(2) 差異の発生理由

売上高につきましては、保守消耗部品その他の売上が計画を下回ったものの、業績予想時に不確定で第 3 四半期会計期間の売上と見込んでいた大型案件(包装機及び包装関連機器等)が 1 月に売上計上を前倒しできた実績が得られたことから、前回発表予想より 151 百万円増加し、1,901 百万円となりました。

利益面につきましては、売上高が増加したことから、売上総利益が計画より 39 百万円増加しました。一方、販売費及び一般管理費につきましては、景気が悪化する中で、予算執行の抑制と経費の削減に努めたことから、計画より 54 百万円削減できました。これらの結果、営業利益につきましては、前回発表予想より 93 百万円増加し、111 百万円となりました。

経常利益につきましては、営業利益の増加に加え、計画よりも営業外収益が3百万円増加したことから、前回発表予想より96百万円増加し、116百万円となりました。

四半期純利益につきましては、経常利益が増加したことと、たな卸資産評価損による特別損失の計上が計画よりも下回ったことから、税金費用の調整の結果、前回発表予想より65百万円増加し、66百万円となりました。

2. 平成21年7月期通期業績予想の修正について

(1) 通期（平成20年8月1日～平成21年7月31日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成20年12月4日発表)	3,800	157	160	80
今回修正予想(B)	3,450	128	135	73
増減額(B-A)	△350	△29	△25	△7
増減率(%)	△9.2	△18.5	△15.6	△8.8
(ご参考) 前期実績(平成20年7月期)	3,597	117	132	72

(2) 修正理由

第2四半期累計期間の実績では、上記に記載の通り、大型案件の売上前倒しで、売上高は計画を上回ったものの、第2四半期会計期間（平成20年11月1日～平成21年1月31日）の受注高については、景気が急速に悪化する中で、顧客企業の設備投資への慎重姿勢が強まり、計画を下回る結果となりました。また、今後の受注環境は一層厳しい状況が予想されるとともに、受注のキャンセルや納期の延期も発生してきていることから、第3四半期以降の売上高は計画を下回る見込みとなりました。

このため、通期売上高予想につきましては、前回発表予想より350百万円減少する見通しとなったことから、3,450百万円に修正いたします。

利益面につきましては、通期売上高が減少することから、売上総利益が計画よりも100百万円程度減少する見通しとなりました。一方で、販売費及び一般管理費につきましては、第2四半期累計期間の実績で計画より54百万円削減し、第3四半期以降も引き続き抑制に取り組むことで、通期で計画よりも70百万円程度削減できる見込みではありますが、売上総利益の減少分をカバーすることは困難な見通しとなりました。この結果、通期の営業利益予想につきましては、前回発表予想を29百万円下回る見通しとなったことから、128百万円に修正いたします。

また、営業利益予想を修正したことから、第2四半期累計期間の実績も勘案し、通期の経常利益予想を135百万円、当期純利益予想を73百万円に修正いたします。

(注) 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以上